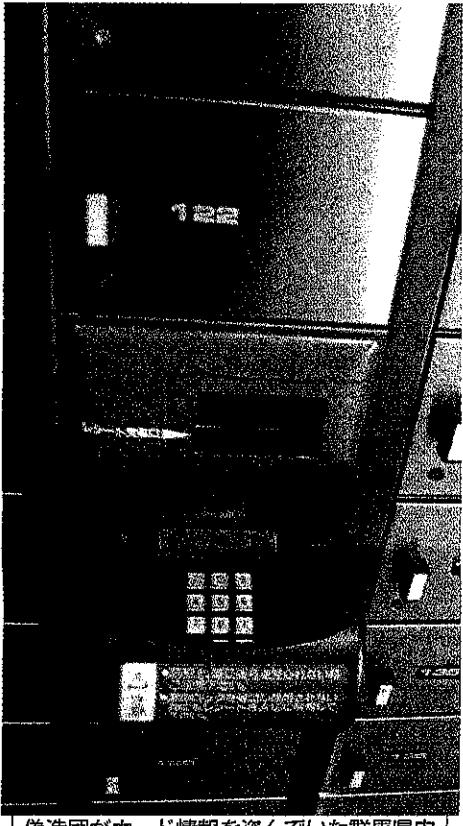


# 闇社会うごめく



偽造団がカード情報を盗んでいた群馬県内のゴルフ場のロッカー。 身近な温浴施設やスポーツクラブでも同様の被害が出ている

# 暴力団、外国マフィア

金曜日の夜、リーダーの携帯電話から數人の男たちに連絡が入る。指定場所でワゴン車に乗り込み、十時間以上かけて四国や九州、東北に向かつ。家電量販店で「賣い子」たちは、偽造クレジットカードの限度額までカメリヤやパソコンを購入。東京で「バッタ屋」と呼ばれる古物商に売りさばいた。「小遣い稼ぎの感覚だ。フリーに次々と情報を転写した。

ターザたちも買い物をやつていた。買ひ子役だった三千代の元暴力団組員が黙口をたたいた。グループには日本人リーダーと賣い子、運転手、専らカード偽造を手掛ける中国人。風俗店やスナックでカードの磁気情報をスキミングして、中国人がパソコンを直往に操作して、南米から「運び屋」が手荷物に潜ませて空路運んだ生カード

中国マフィアと交流がある中国人男性は「偽造技術は、中国人や中国系マレーシア人が持ち込んでる。パチンコでの裏口ʌビットキング、スキミングなどどんどん手を変えていく」と言った。

偽造担当の中国人は頻繁に入れ替わる。メンバー同士が互いの詳しい素性を知らないことも多く、摘発されても解明が難しい構造になっている。元組員は「リーダーの上に大ボスがいて、背後に暴力団や中国マフィアが控えている」と大規模な組織性をおわせた。

広容疑者(三)の関係先からは、大量の暴力団関係者の名刺が押収された。ヤミ金融が社会問題化した日五会員関係者も含まれた「日本中の暴力団が登場する」と警視庁幹部は交友の広さに舌を巻いた。

警察庁が1月にまとめた暴力団情勢では、恐喝や賭博などの伝統的資金獲得活動は影を潜め、詐欺や窃盗が増加。昨年摘発された偽造高速券や年末年始の偽一万円札の事件にも暴力団が関与した。一月に摘発された振り込め詐欺団は、「元暴走族の少年らを実行部隊に百億円ともみられる巨額を稼ぎ、暴力団に上納された疑いが強い。

—全国哪里でもカードで買い物ができる、ATM現金自動預払機で金を下ろせる。足のつかないペリペライ式携帯電話で簡単な連絡を取り合える。便利になればなるほどうまい時代だ」と元組員は笑みを浮かべた。警視庁幹部は市民一人ひとりが、便利さゆえの落とし穴を自覚すべく時代になつたと指摘する。(この企画は北川成史、比叡忠史が担当しました)

「便利になるほどスキだらけ」

広容疑者(ヨミ)の関係先からは、大量の暴力団関係者の名刺が押収された。ヤミ金融が社会問題化した旧五菱会関係者も含まれた。「日本